オリエンテーリング
道場 第84回

新時代の世界選手権

松澤俊行

ブラジルでのサッカーW 杯に注目が集まった7月、イタリアでは世界オリエンテーリング選手権大会（WOC）が開催されていた。新種目も導入されたこの大会の結果は？

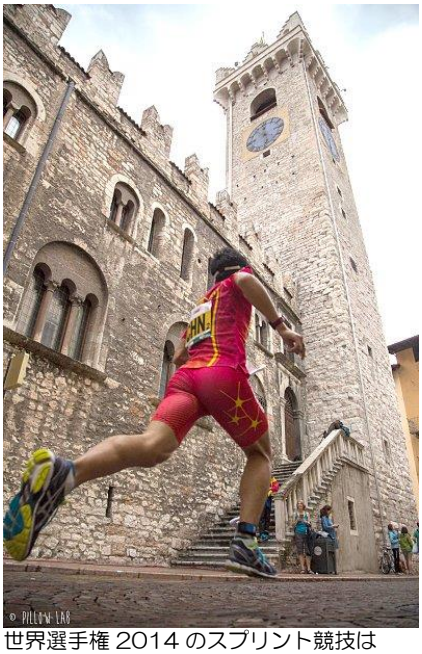
ロングとミドルの決勝へ

2004 年から 2013 年まで同じ方式で行われてきた世界選手権も、2014 年から大きく制度が変わりました。押さえておくべき変更点等を記します。

＜2004 年～2013 年＞
・個人戦 3 種目は予選決勝方式。予選は男女 3 組ずつに分かれ、出場枠は各国 1 組 1 人ずつ、つまり男女 3 人ずつ。例外として、前回優勝者は追加で出場可能。
・予選各組 15 人までが決勝へ進出。決勝は原則 45 人出場。
・リレーは男女各 3 人 1 組。

＜2014 年（以降）＞
・個人戦スプリントは 2013 年までと同様の方式。
・男女 2 人ずつ、合計 4 人で競うスプリントリレーを新設。
・ロング、ミドルは決勝のみ。70～80 人が出場。
・ディビジョン制を導入。実績に基づき D1（8 ケ国）、D2（14 ケ国）、D3（D1、D2 以外の全ての国）に 3 分割。上位ディビジョンの国ほど、多くの選手がロングやミドルに出場できる。D3 の国でも各種目男女 1 人ずつ出場可能。

この変更により、ロングやミドルの予選通過が難しかった日本選手も、毎年決勝に選手を送り込むチャンスが生まれました。一方で、「D3＝上位国でも中堅国でもない」という日本の位置付けも明確になりました。ひとまず、どの選手も「予選通過」を目標にしていた（実力や経験の有無に関わらずそう言わなければならない雰囲気があった）時代が終わったわけです。「D2 昇格」が当面の、D2 昇格後は「D2 定着」が、D2 定着後は「D1 昇格」が、D1 昇格後は…というように、今後の目標設定はより現実的かつ段階的に、そして、より明確になるでしょうし、その目標が組織的に共有されていくことでしょう。



世界選手権 2014 のスプリント競技はベネチアの市街地がテレイン

日本選手の成績は…

新方式で行われた最初の世界選手権で、日本選手がどのような闘いを見せたでしょうか。表にまとめてみます。（予選は組内の成績です。スプリント女子予選には、日本選手 2 人が出場しており、日本選手の出場がなかった組の成績は省略しています。また、種目の並びは、開催順ではありません。）

種目	日本選手の順位・タイム	対トップ比	1位の選手の頭文字・国・タイム
スプリント女子予選	小暮まどか　28位　17分44秒	136.9%	E.K.（デンマーク）12分57秒
スプリント女子予選	加納尚子　24位　16分17秒	119.3%	L.E.（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）13分39秒
スプリント男子予選	尾崎弘和　23位　13分57秒	110.6%	D.H.（スイス）12分37秒
スプリント男子予選	真保陽一　27位　13分45秒	110.0%	J.L.（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）12分30秒
スプリント男子予選	長縄知晃　33位　15分21秒	120.2%	Y.M.（ベルギー）12分46秒
スプリント女子決勝	（出場者なし）	―	SB（デンマーク）15分37秒2
スプリント男子決勝	（出場者なし）	―	J.W.（スイス）15分32秒0
スプリントリレー	25位　4人合計68分28秒	115.9%	スイス　4人合計59分04秒
ミドル女子決勝	宮川早穂　65位　86分40秒	233.9%	A.B.（ｽｳｪｰﾃﾞﾝ）37分03秒
ミドル男子決勝	真保陽一　63位　58分52秒	154.1%	O.L.（ノルウェー）38分12秒
ロング女子決勝	稲毛日菜子　56位　111分59秒	140.4%	S.M.（ロシア）79分44秒
ロング男子決勝	結城克哉　50位　127分00秒	134.0%	T.G.（フランス）94分45秒
リレー女子	26位　3人合計192分29秒	172.9%	スイス　3人合計111分21秒
リレー男子	30位　3人合計164分43秒	141.0%	ｽｳｪｰﾃﾞﾝ　3人合計116分49秒

（参考：大会公式ＷＥＢサイト　http://www.woc2014.info/woc.php）

多少の「各人の地力の差」「テレインの向き不向き」「調子」による揺れは感じられるものの、各選手、本来の実力に近い走りをしたように見受けられます。

オリエンテーリングでは、コース図には表れない要因にも結果が左右されます。そうした要因や、現地にいた者にしか分からない空気は感じ取りようもありません。ここでの細かな批評は避けておきます。自分自身、今後の世界選手権への出場を目指している身であり、上記の日本選手たちは「チームメイト」です。後日、直接話をいろいろ聞けるでしょうし、その話を聞いた上でいろいろなことを判断しようと思います。

とはいえ、客観的な数値が能弁であることもまた事実。上記の数値は一つの「基準」「目安」として、関係者が今後の活動をする上での指針となることでしょう。

参考：オリエンテーリング日本代表選手ブログ（「現地の空気」が少し分かるかも？）
http://www.orienteering.or.jp/NT/blog

世界選手権 2014 女子リレー
前の国を追いかける日本代表

世界選手権 2014 男子リレー
優勝のスウエーデン

雑感

サッカーW 杯での日本代表の成績は残念なものに終わりました。「バッシング」とも取れる厳しい評価も聞かれます。しかし、振り返れば、グループリーグの組分け抽選直後には、コートジボアール、ギリシア、コロンビアという対戦国を見て、多くの人が「3 勝 0 敗もありそうな気がするし、そうなれば嬉しい。でも、0 勝 3 敗になったとしてもおかしくはない相手が揃った」と言っていたはず。大会が近付くにつれてその冷静さが失われ、「希望的観測」だった展開が「ノルマ」のように感じられてくる、という状況が見られたように思います。

経験上、オリエンテーリングの国際大会に臨む日本代表チームの周辺でも（レベルやスケールの違いはあれ）似た状況に陥ることがある、と感じています。世界選手権のたびに痛い目に遭いつつも、1 年後の大会直前には「全ての選手が前年を大きく上回る結果を出して当然」という空気がチームを支配している、というように。

「日本は、現状、D3 に位置するオリエンテーリング途上国」。そうした現状を再確認し、「1 年で起こせる変化は、1 年分の変化。変化する気がなければ、その 1 年分の変化は起こせない」といった危機感、緊張感を、日が経っても薄れさせることなく、持ち続けなければならないでしょう。

（松澤俊行）

参考資料：尾上秀雄氏作成 新制度の概要説明資料（日本オリエンテーリング協会 WEB サイトより）
http://www.orienteering.or.jp/archives/2013/0828_post-45.php

世界選手権 2014 写真の出典
https://www.flickr.com/photos/woc2014/sets/

松澤俊行プロフィール

1972 年静岡県生まれ。日本代表選手として、世界選手権に 11 回出場。9 月のアジア選手権（AsOC）での優勝、世界選手権出場権の獲得を目指す。

※アジア選手権ほか、地域選手権が世界選手権の予選の一つとして位置付けられた、という点も今回の制度変更の特徴。アジア選手権のロング、ミドルで優勝した選手は「アジア選手権者」として、翌年の世界選手権で当該種目に出場できる。